

こころ部会

【 テーマ 】

精神障がいの方が 生き生きと暮らすための 地域づくりをめざす

部会長	宮澤 裕子	訪問看護ステーションはる風
副部会長	宮崎 さほり	CoCoレスト
	村山 実雪	千曲市福祉課
	高尾 幸矢	坂城町福祉健康課
事務局	中澤 範子	千曲・坂城基幹相談支援センター

1. 年間目標

精神障がい者が安心して過ごせる日中活動の場等について検討する

2. 活動状況

日時	会場	人数	主な内容
6月16日	ふれあい福祉センター	17	自立支援協議会、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム（以下「Nimo包括」とする）、こころ部会の活動計画について説明。日中活動の場等について各自が感じている想いを共有した。
8月18日	Web会議	18	千曲市の地活に関するアンケート結果を共有後、長野市地域移行コーディネーター西川委員より長野市の地活についての講演をいただき、日中活動の場について意見交換を行った。
11月17日	ふれあい福祉センター	23	小諸高原病院医療社会事業専門員、ピアサポーターを講師に招き、「ピアサポーターと協働して作る地域精神保健福祉」について研修を行った。ピアサポーターに興味のある当事者や支援者6名も参加。
2月16日	ふれあい福祉センター	15	Nimo包括で検討した地域課題について今年度の振り返り、次年度の活動計画案について当事者ミーティングの発足について

3. 総括

○検討した課題

《精神障がいの方が安心して過ごせる日中活動の場等について》

相談支援専門員を対象に実施した「地域課題の現状を把握するアンケート」の結果に基づき、精神障がいの方が安心して過ごせる日中活動の場等について検討を行った。

・支援者、地活の職員、利用者、それぞれの立場からのニーズや課題を聞くことができて良かったという意見がある一方で、地域社会との繋がりがなく孤立している方も多くいることや、地域に合った地活等の日中活動の場、交通手段等が必要、資金面（人材不足）等の課題が出された。日中活動の場の充実は地域移行としても重要であることを再度共通認識できた。

《ピアサポーターの体制確保について》

・第3回の部会において、小諸高原病院の医療社会事業専門員とピアサポーターを講師に招き、具体的な活動内容や役割等について講演をいただいた。実際に活動している方々の話を聞くことができ、千曲・坂城地域での現状等について考えるきっかけにもなった。

千曲・坂城地域でも当事者ミーティングの発足に向けて動き始めることができた。

《Nimo包括との連動について》

・今年度より本格稼働となったNimo包括は、2回の検討委員会が開催された。こころ部会でもNimo包括の会議内容が情報共有され、課題について認識することができた。

今後は、Nimo包括で協議していくことに決まった「障がいの理解」と「当事者の声」について、こころ部会で具体的にどのような活動ができるのか等、共通の課題と認識して活動することが求められる。

○次年度に向けて

Nimo包括を通して、日ごろ各委員が職場や日常で精神障がい者の方々を取り巻く環境に対して感じている困りごとや肌感に違いがあり、その共有と理解のために情報発信や啓蒙活動が必要だと感じた。高齢者分野で20年以上前から取り組まれている「包括ケアシステム」に精神障がいの分野も追いつけ追い越せの第一歩だと考える。

こころ部会は、Nimo包括と連携して、目指す「精神障がい者の方が、生き生きと暮らすための地域づくり」に具体的に取り組んでいかなければならない。今年度行ってきた活動は、その礎になり、さらに地域に合ったものへと変化していく必要があるため、引き続き、行政・事業所・市民を巻き込み皆さんのご意見を伺いながら進めていきたい。

また、Nimo包括とこころ部会との連携を、部会員にもわかりやすく提示して具体的に進められるようにしていきたい。

・地域課題の検討について

引き続き、精神障がいの方が安心して過ごす日中活動の場等について検討する。

・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムについて

Nimo包括で協議された内容を注視し、共通意識を持って協議を進めていく。

・ピアサポーターの体制確保について

ピアサポーターの活動の可能性を探りつつ、希望者が増えるよう検討していく。